

暮らしの学び舎Salmatt企画 暮らしから家庭科を問い直す学びの場

家庭科で育つ子どもと私のWell-being
カタリバ「家庭科の今, 私の課題」

2026 0530

鈴木明子

suzuaki@hiroshima-u.ac.jp

第1回20260425(土)10:00-12:00 活動報告

第1回オリエンテーション「新生家庭科に向けて」

子どもの成長における家庭科教育の大切さ、家政教育と我々の生活のWell-beingとのつながりを共有できる皆様と貴重な時間を過ごしました。

第1回は、鈴木が主催者としてオリエンテーションをかねて家庭科教育の現状と課題について話し、その後、参加者全員で自己紹介も含み、各自の課題や関心事を共有しました。

講演「新生家庭科に向けて」の内容

1. 家庭科の授業づくりのために
2. 生活者として目指す資質・能力
3. 家政学における生活のとらえ方
4. 家政教育と家庭科教育
5. 学習指導要領改訂に係る情報
6. 日本家庭科教育学会の動向
7. 家庭科カリキュラム構想に求められること
8. 未来志向の生活創造に向けて

参加者全員で行った協議

生活の捉え方，構造化など，授業の質や教師の視点について議論が行われ，参加者たちは，理論と実践のギャップを埋めることの重要性を強調し，教師の視点と学生の視点の両方を考慮した授業設計の必要性について共有できたと考えます。

詳細はpdfファイルとパワーポイントの資料ファイルをご覧ください。

[【第1回活動報告書】](#)

[【第1回配付資料】](#)

4月25日(土)アンケートの結果概要(気づき・感想)から

「新しい学習指導要領への深い理解」と「校種を超えた学びのコミュニティ」への強い期待
【参加者の意見 要約】

1. 学習指導要領と教科観の再構築

- 理論と実践の統合: 鈴木先生の解説により、次期指導要領の展開を理論的・実践的に整理でき、目指すべき家庭科教育の「核」や「概念」を再確認できた。
- 課題の明確化: 「領域を教える」という従来のイメージから脱却し、概念を総合的に理解することの難しさと、その克服に向けた教員養成や授業づくりの必要性を実感した。

2. コミュニティの拡大と今後の展望

- ネットワークへの期待: 小中高の垣根を超え、現場の教師と研究者がフラットに語り合える場として、さらにネットワークを広げていきたいという意欲が高い。
- 具体的展開: 実践事例のブラッシュアップやワークショップ、他機関(研究所など)とのコラボレーションなど、より具体的で双方向的な活動が望まれている。

その他

多様な参加者を支えるプラットフォーム

不安の解消と刺激: 育休中の教員にとって、社会や授業の変化から取り残される不安を解消し、現場との接点を持ち続けられる貴重な場となっている。

アクセスの良さ: 土日のオンライン開催は、子育て中や遠方の教員にとっても参加しやすく、非常に高く評価されている。

4月25日(土)アンケートの結果概要 (今後扱いたいテーマ等)から

【活動の目的】

- ・小中高・大学の垣根を超えた家庭科教育のプラットフォームの構築。
- ・新学習指導要領を具現化する授業実践力の向上。

【重点アクション】

① 実践事例の「ブラッシュアップ・ワークショップ」

内容：単なる実践報告で終わらせず、参加者で授業案を検討し、理論に基づいた改善を行う。
ねらい：「教え方に導かれてしまう」課題を克服し、生活を構想する力を育む教材開発力を養う。

② 外部機関とのコラボレーション推進

内容：東京家政学院の家庭科教育研究所など、他組織との共同企画・研究。
ねらい：活動の社会的信頼性を高め、より広範な教育ネットワークへの波及を図る。

③ 産休・育休・復帰支援ネットワークの強化

内容：ライフステージの変化にかかわらず学びを止めない仕組みの維持。
ねらい：現場復帰への心理的ハードルを下げ、最新の教育動向を常にアップデートできる環境を提供する。

【今後の開催内容(案)】

候補テーマ：「評価のカットングラインを知る：問いと評価の一致」

形式：現場の困りごとを「理論」でアドバイスする相談会。